

カーボンニュートラル実現に向けた 北海道の再エネ活用研究会について

2021年10月12日

経済産業局北海道経済産業局

北海道再エネ研究会の設置

- 2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すためには、エネルギーの地産地消、新たな活用方策の検討を進めることが重要。
- 北海道経済産業局では、再エネ導入による雇用・産業等の経済効果や人材・コストをはじめとする地域課題、再エネ活用に向けたプロジェクト組成の検討を進めるための研究会を新たに設置。
- 先駆的な取組を進めている自治体や企業等の意見を元に、具体的な支援策につなげることで、再エネの活用促進を図る。

(正式名称) カーボンニュートラル実現に向けた北海道の再エネ活用研究会

委員 (敬称略)

- ・ 碓 一寿 (興部町長)
- ・ 竹中 貢 (上士幌町長)
- ・ 徳永 哲雄 (弟子屈町長)
- ・ 工藤 広 (稚内市長)
- ・ 渡邊 宏和 (北海道経済部次長)
- ・ 井澤 文俊 (北海道ガス株式会社 取締役常務執行役員経営企画本部長)
- ・ 平本 健太 (北海道大学大学院経済学研究院長)
- ・ 世永 茂 (北海道電力株式会社 執行役員総合研究所長)
- ・ 池山 成俊 (事務局:北海道経済産業局長)

主な研究会の取組内容

- ・ 再エネ活用自治体における取組状況の紹介。
- ・ 再エネ導入による経済効果や活用に向けた課題の洗い出し、プロジェクト組成の検討等。
- ・ 年度内に複数回開催し、議論結果は令和3年度末までにとりまとめ。

【第1回研究会】

日時：令和3年10月1日 (金)

場所：北海道経済産業局会議室

議事内容：

1. 開会挨拶
2. 現在の国の取組状況
3. 各地域の取組紹介等 (興部町、弟子屈町)
4. 今後のスケジュール

【第2回研究会】

日時：令和3年11月1日 (月)

場所：北海道経済産業局会議室

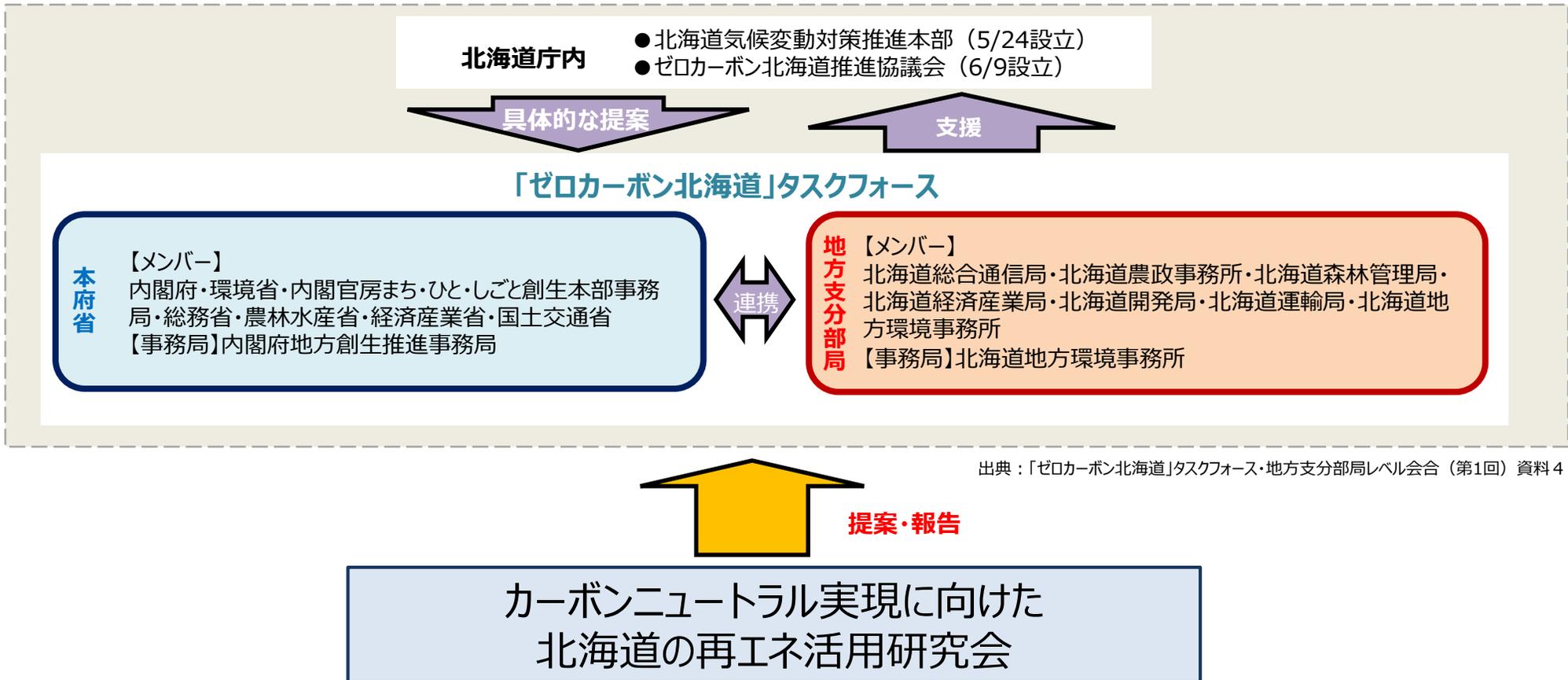
議事内容：

1. 前回研究会のまとめ
2. 各地域の取組紹介等 (稚内市、上士幌町)
3. 今後のスケジュール

※第3回以降の日時、議事内容は後日決定

研究会のアウトプット

- 本年8月、「ゼロカーボン北海道」タスクフォースが本府省（事務局：内閣府地方創生推進事務局）、地方支分部局（事務局：北海道地方環境事務所）に設置。
- 「ゼロカーボン北海道」タスクフォースや関係部局と連携しながら、具体的な支援策につなげる。



【参考】再エネを活用した電力以外のエネルギー創出事例

- オホーツク管内興部町では、2019年6月大阪大学とメタンガスからメタノール、ギ酸を常温常圧下で生産する技術開発にかかる連携協定を締結。売電に頼らないエネルギーの創出と地産地消による利活用を推進。
- 2021年には民間企業2社を加え研究体制を強化。2020年度NEDO「エネルギー・環境新技術先導研究プログラム」に採択。研究開発を実施中。

新たなエネルギーの創出-大阪大学との連携

